

早河洋社長 2013年「年頭挨拶」(要旨)

テレビ朝日グループの皆さん、そしていつも一緒に仕事をしているスタッフの皆さん、明けましておめでとうございます。朝から社内は達成感と喜びにあふれていますが、去年私たちは、54年の歴史の中で初めての快挙を成し遂げました。年間視聴率でついにプライムトップを勝ち取りました。

ゴールデンは惜しくも0.1ポイント差で2位でしたが、これも開局以来初めてのことです。全日も2位、プライム2は8年連続で1位でした。大変めでたい最高のお正月となりました。私たちの競争相手は、民放テレビが始まって以来60年もの間、交互にトップの座を奪い合っており、豊富な成功体験を持っています。2012年、テレビ朝日がその一角に食い込めたことで、我々の歴史に新たな1ページを刻むことができました。

テレビ朝日は将来「日本でトップグループのコンテンツ総合企業」になることを目指しています。コンテンツを核としたビジネスにおいて、日本有数の収益力を誇る会社に成長したいという意志を全社員で共有し、「デジタル5ビジョン」という経営計画を私たちは作り上げました。2011年度から2013年度までの3カ年は、そうなるための基盤を完成させる期間と位置付けています。

経営計画の最終年度をソフト面で後押しするのは開局55周年を記念した一連のスペシャル番組やイベントであり、インフラ面で後押しするのは、当社の第2の戦略拠点「ゴーちゃん。スクエア」の完成です。

視聴率・広告収入・広告外収益をさらに底上げするためにも、開局55周年記念期間に送り出す特別番組や記念イベントは何としても成功させなければなりません。

秋に完成する「ゴーちゃん。スクエア」は、多目的ホールと17階建てのオフィスビル「EXタワー」を備えています。ホールは、ライブイベントなど新たなコンテンツの発信基地として大いに活用していきませんが、すでにその準備に入っています。またEXタワーの完成で、六本木の地にグループが集結し、グループ価値を最大化できる体制が整います。将来に渡ってテレビ朝日の飛躍を支えるインフラ面での基盤となります。

55周年記念企画、「ゴーちゃん。スクエア」の完成という二つの追い風を受けて、経営計画の最終年度は必ずや成功裏に終わると確信しております。

テレビ朝日は今、民放キー局の中で独特な、しかも優位なポジションを築いていると思います。過去10年以上にわたり、プライム2で成功した人気番組をプライムタイムに送り出すという戦略を堅持し、結果として多くの若年層の支持を取り込むことに成功しました。同時に中高年層の厚い支持も得続けています。これからの中高年層はデジタルリテラシーが高く、しかも勤労意欲・消費意欲が非常に高い存在になるでしょう。企業もそうした層を狙って新しい商品、新しいサービスを開発してくるでしょう。今日と違った形の消費社会が形成される可能性すらあります。少子高齢化社会の中では、限られた階層だけを狙うのではなく、若者から高齢者まで幅広い階層の支持を得られることがこれまで以上に大事になります。当社にとっては絶好の勝機だといえます。自信を持って独自のポジションを築いていきましょう。

今、スマートフォンやタブレットの普及、スマートテレビの出現で「視聴者の目が放送から他のサービスに奪われる」と言う人がいます。しかしそうした状況は、私たちの前にまだまだ成長フロンティアが広がっている、ととらえるべきでしょう。マルチスクリーンの活用、ソーシャルメディアとの連動、動画配信などに真剣に取り組むことで、テレビ放送のメディア価値をより高め、新たなビジネスチャンスを産み出していけると確信しています。座して待つより、やるべきことの優先順位を決め、トライアルを積極的に実施し、外の力が必要であれば、自前にこだわらず、どんどん協業していく。とにかく「新しい時代の新しいテレビ」をつくるのは私たちテレビ朝日だという気概をもって仕事に取り組んでいただきたいと思います。

今年「日本でトップグループのコンテンツ総合企業になるための基盤を完成させる」年、まさに正念場の年です。私も皆さんと力を合わせて遮二無二走り続けます。一緒に頑張りましょう。

以上